



校長室便り 今日から勝負の2学期です！



文責 校長



長い長い33日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。昨年度に比べると幾分涼しく、過ごしやすい夏休みだったのではないかと思います。

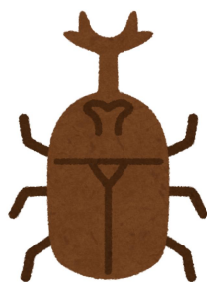
さて、タイトルを「勝負の2学期」と銘打ちましたが、それは、2学期に学校最大の行事「学習発表会」が控えていることあるのですが、純粋に3学期制の教育課程において、この2学期が一番長いだけでなく、学習や生活を通

して心身共にで最も成長する時期と捉えているからです。

始業式では、いつも行うスライドでの説明はせず、口頭で2学期に向けての心構えなどをお話しました。伝えたかったことは単純に一つです。自分でがんばりたいことを決めて、「本気」で取り組んでほしいとお話しました。「本気になる」ことは実は大人でも難しい。本気になれる人は、実は本気になることがいかに大変で苦しいことかを分かっているから、恥ずかしいとか面倒くさいとか言い訳をしているだけです。一度本気になるということがどういうことか分かれば、この後にあるであろう様々な困難にも立ち向かっていけると思います。私は、その「本気」を、私は6年生の「よさこい」に見たいと思っています。

かけ算を覚えることでも、漢字が書けるようになることでも、スポ少の練習でもいい、学年や成長の段階の違いはあれ、今ある自分を越えていくことを恐れず、真面目に、愚直に取り組む姿を、子どもたち一人一人に見られる2学期になると、とてもうれしいなと思っています。

【夏という季節を心に留める】



夏という季節は、残りの3つの季節とは違い、始まったときの高揚感と、終わるときの寂寥感のギャップが大きく、そこがまた夏の風流さであり、感傷的な気持ちにさせるのだと思います。

これは、子どもたちにも大人にも共通の感覚ではないでしょうか。児童文学作品を読んでも、作品の舞台は圧倒的に夏が多いんですね。理由は様々あると思いますが、主人公がアクティブに成長していくための舞台や話題の設定がしやすいのでしょう。

では、私は、どんなアクティブな夏休みを過ごしたかということ、早朝にウォーキングを始めました。1時間程度、約4キロをゆっくり歩きます。しかし、1か月经っても体重は全く変わりませんでした……とほほ。その効果はありませんでしたが、なんと歩いている途中でカブトムシとクワガタを4匹見つけ、久しぶりに飼育してみることになりました。こんな身近に自然が残っていることに驚いたと同時に、いくつになってもカブトムシやクワガタは憧れの昆虫だなあと思いました。

もう一つは、映画を久しぶりにたくさん観ました。作品のジャンルは、夏だけにホラー



映画です。ホラーにも細かいジャンルがありますが、個人的には、宇宙人が出てくるものが意外に信憑性があって怖いなと思いました。いくつか見比べていると、作品の構成だとか、表現の仕方だとか、問題への焦点の当て方など、いろいろなことが見えて、おもしろく鑑賞できました。因みに、始業式の私の話で、子どもたちが目を輝かせていたのは、このカブトムシとホラー映画のお話の場面でした。子どもたちの興味関心を引くのは難しいとつくづく思います。

【夏休みの保護者面談の話題から】

夏休み中の保護者面談においでいただき、ありがとうございました。面談の中で、いくつか共通する話題がありましたので、ご紹介とその対応について学校の考えをお知らせします。

①お子さんへの携帯電話の購入について

多かった話題の一つに、「携帯電話の購入を考えているがどうしたらよいものか」というものがありました。多分悩まれているのは、周りの友だちが買い始めていて、買わなければ仲間外れにされないか？でも、買えばいろいろなトラブルに巻き込まれないか？というジレンマ的なことだと思います。学校では、購入についての意見を述べる権限はありませんが、お願いしたいのは、購入することによってパンドラの箱を開けてしまうこともあることを覚悟したうえで購入してほしいということ、また、携帯電話にかかるトラブルは基本、ご家庭同士で対応いただきたいということです。

スポ少や習い事の送迎事の連絡などを考えれば、あると便利だと思います。でも、ゲームや遊びレベルの使用なら、随分と高い買い物のような気がします。実際、子どもたちが事件や犯罪に巻き込まれるケースでは携帯電話が介在していますし、仮にお子さんが正しく使用したとしても、SNSは相手がいます。それも相手は小学生とは限りません。要は、適切な使い方をご家庭でしっかりと話し合い、それを遵守できるかどうかということではないでしょうか。目的なく与えたことにより、思いも寄らない結果を招いてしまうのが携帯電話の怖さです。

②お子さんの薬の服用について



面談では、WISC検査についての問合せがたくさんありました。それと同時に、「医療につながってお医者さんから薬の服用を勧められたが、どうすればよいか」という相談が複数件ありました。私は医師ではないので断言できませんが、このお薬は、お子さんの「多動性や衝動性」を抑制するものと思います。学校の立場からお話しますと、多動傾向のあるお子さんは、常にいろいろなことに興味を示します。よい見方をすれば、「元気で好奇心旺盛」なのですが、お困りになっている位ですから、実際は注意力が散漫で集中して物事に取り組めず、その結果、学習の定着が図られない場合が散見されます。また、衝動性の強いお子さんは、思ったことをすぐに言動に出してしまう傾向が強いので、友だちとのトラブルが絶えません。これがそのまま大人になっても続くとしたら、本人にとって生きづらく、厳しい現実が待っていることになると思います。

薬を飲むことに抵抗がある保護者の方も多いと思いますが、飲むのは親御さんではありません、お子さん本人です。大人になってから「なんで早く服用させてくれなかったんだ、服用していたらずっと楽な生き方ができていたかもしれないのに」と言われることがないように、試にお医者さんの処方尊重されてもよいのではないかと思います、いかがでしょうか。

～決断しないことは、時として間違った行動よりもたちが悪い～ ヘンリー・フォード